

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	縁キッズ		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2025年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会自立を目指し、食育・運動・社会交流の3大柱を軸に、個別療育と集団療育をバランス良く行っている。	食育では、お子様の苦手とする野菜をあえて取り扱うことで、挑戦する気持ちを育てている。また、他児と調理や食事することで成功体験も重ねている。 社会交流では、積極的に博物館や公共施設に向かい、社会生活に密着したマナーや能力を育てている。	定期的に保護者様アンケートを行い、日々変化するニーズに応えていく。また、活動がマンネリ化しないように職員間で情報共有を行っていく。
2	個別支援計画の更新時には、保護者様へ事業所までお越しいただき困りごとやニーズを直接お伺いしている。	保護者様の表情や声のトーンに注目してお話しを伺っている。細かな表情に寄り添い、共に考えることで、涙ながらにお話しをしていただくこともあり、ご好評いただいている。	せっかくお越しいただいているため、面談で終わらずに事業所の見学やお子様の作品の展示等もゆっくり見ていただく時間を確保する。 また、一人の職員だけがご対応するのではなく、体制が許す限り数人の職員でお話しを伺う。
3	専門職(児童指導員5年以上経験者、心理士)が複数在籍しており、質の高い療育を提供している。	児童発達管理責任者と専門職が連携をとり、個人に合わせた目標と支援を考案している。必ず児童発達管理責任者が専門職が勤務している状態をキープしている。	新人職員からも質の高い支援が提供できるように、研修とロールプレイングを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催がされていない。	保護者会を開催する上で、場所と時間の確保が難しい。	小さなグループの保護者会から開催する。 【例：就労を控えている保護者様グループ、女の子のお子様の保護者様グループ、等】
2	地域交流が少ない。	地域へのお出かけは積極的に行っているが、交流する(やり取りをする)活動が考えられていない。	四季折々の活動時には、プレゼント交換やお手紙等を通して交流を深めていく。
3			

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	縁キッズ		公表日		2026/2/27	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	クールダウンできる部屋がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	利用者様の特性に応じ、各日の人員配置を考えている。	人欠ではないが、マンパワー不足を感じる時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	各部屋にモニタメントを置き、ここが何の部屋なのか視覚的にわかるようになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の掃除、消毒を行っている。 活動によって物を動かし、スペースを広く使えるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	基本的にクールダウンの部屋が空いている。 空いていない場合は、活動を変えることでスペースを確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	朝礼時に前日の振り返りを行う。また、月末に個人の目標と先月の振り返りを管理者に提出している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎年2月頃に配布し、集計後、HPで公表している。また、いただいたご意見を参考に業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	職員会議と管理者との個人面談から、意見をすいあげて業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	実地指導として、県から3~4年で指導を受けている。指摘事項はすみやかに改善している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	様々な企業が行っている研修に積極的に参加したり、会社内の研修が月に1回ある。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	児童発達管理責任者を中心に、職員間で情報共有しながらプログラムを作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	半年に1度の保護者との面談からニーズを吸い上げ、普段の活動をモニタリングして計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	児童指導員を中心に、各ご利用者様の支援内容を会議している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	決まった目標がおりんべんに記載されており、誰でもすぐに支援内容が確認できるようになっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	トイレチェック表、支援記録等、お子様の行動記録を日常的に行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	具体的な支援内容が計画に入り実行している。 アセスメントやモニタリング時に職員間で達成度を考察する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	職員で会議の場を設けて立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	月案をたてて、1週間ごとに目標をたてる（例：自立活動の週、運動の週等）ことで、マンネリ化しないよう配慮している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	1週間ごとに、支援内容を変えてバランスをはかっている。(個別療育週、集団療育週、自立活動週、制作週)	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼時に本日の支援内容や動きについて周知している。また疑問点や改善点が出た場合はすぐに改良している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	終礼時に本日の振り返りを行っている。時間の都合で間に合わなかった場合には、次の日の朝礼時に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	必ず当日のお子様の記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	半年に1度、モニタリングを行い計画を見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6	0	自立を中心に、基本活動がまんべんなく組み合わせられるような活動を考察している。	地域交流が希薄になりがちである。季節のイベントを考えて、地域交流を深めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	自分が食べたいおやつを選択する形式をとっている。また、お買い物活動では、自分が買いたい物を考える時間を取っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	会議に参加する者は、管理者と児発管が多い。自らの支援で日常の様子を理解し、他の指導員からの聞き取りも行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	協力医療機関は決まっている。近隣保育園と連携を取って事業所の現状や保育園のニーズを聞き取っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	ご利用様がいる学校との連携は欠かさず行っている。下校時刻表や行事計画を学校から直接いただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	送迎時のみに限らず、情報共有を積極的に行い保育園へ訪問をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	移行先や相談員の方に個別支援計画や普段のご様子の情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	熊谷市が行っている、児童発達支援・放課後等デイサービス向けの研修に率先して出席し、連携を図りながら知識を深めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2		児童クラブ等の連携を図ることができていない。ご利用様が通う学校の学童を中心に今後計画をたてていく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	熊谷市が行っている協議会へ参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	送迎時に必ず様子をお伝えし、保護者様の困りごとやニーズを聞き取っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	普段のお問い合わせへの回答はもちろんのこと、こちらから本日の様子に合わせて支援方法のアドバイスを行っている。	
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	ご契約時に全てご説明を行っている。また、都度お問い合わせがあった場合にもご回答している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	活動のご提供を行った際に、お子様からの拒否があった場合は無理強いをしないよう心がけている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	半年に1度面談を行い、短期目標と長期目標について説明後、同意の印鑑をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	半年の面談の際に、お悩みを打ち明けていただくことが多い。普段の送迎時にもお話しを伺っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		保護者会の設置が必要か、要検討 保護者会について、児発、学校別、年齢、特性等のグループに分けて小さな保護者会を検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情をいただいた場合は記録を取り、エリアマネージャー、本社と共有し、早急に改善を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	月に1回のお便りで、活動内容や連絡事項をお伝えしている。	今後はSNSを利用してリアルタイムな発信ができるような体制を整えていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	鍵付きの書庫にすべて保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	特性についての研修や職員間での情報共有を随時行っている。また、保護者対応について長い職員が新人へアドバイスを行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	招待するのではなく、こちらから伺った。	地域交流が希薄になりがちである。 季節のイベントを考えて、地域交流を深めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	全てのマニュアルを作成し、職員間で共有、研修を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	BCP作成後、研修と訓練を行った。 また、随時改善している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	必ず保護者様に伺い、アセスメントシートに記入している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	現状、食物アレルギーをお持ちの方はいませんが、今後ご利用があった場合は指示書に基づいた対応を行う。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画を策定し、研修と訓練を行った。 日常から安全を考慮した活動や環境設定を心がけている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	安全計画を策定し、保護者様へ周知した。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	毎日ヒヤリハットを記録し、再発防止を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止研修を年に2回行い、自分の支援を振り返る時間を作っている。また、職員間で指摘しあえる環境を作っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束の研修を行い、どのような場合のみ許されるか研修をしている。また拘束があった場合は保護者様への説明を行っている。		